〈参考例〉

根切及び山留仕様書

根切は、GLより　　mとし、根切完了後コンクリート打を施工する。

土質がシルトなので、湧水のおそれがあると思われるので、鋼矢板工法を採用する。

山留仕様書

1　山留は、根切前、又はこれと平行して施工するものとし、鋼矢板の除去は、埋戻しを完了し接続地盤に事故の生じるおそれのない時に行う。

また、引き抜き後生じた穴は、砂を充填し、水締めを行う。

ただし、接道部の山留は全て埋殺しとする。

2　鋼矢板　　型の打ち込みを行う。

3　腹起は、　　規格材を使用し、2段とし、鋼矢板に取り付けたアングルブラケットにて支持する。

4　切梁は、　　規格材を使用し、継手は、添板にてボルト締めする。

5　土圧に適用する様に切梁にジャッキングを掛け、施行中に山留の変化を観測する。

6　根切は、第一段階機械掘にて、GL　　mまで掘削し、切梁、腹起を設置、完全堅結後、第二段階根切を行う。

7　その他、別添・山留計画通りに施工する。